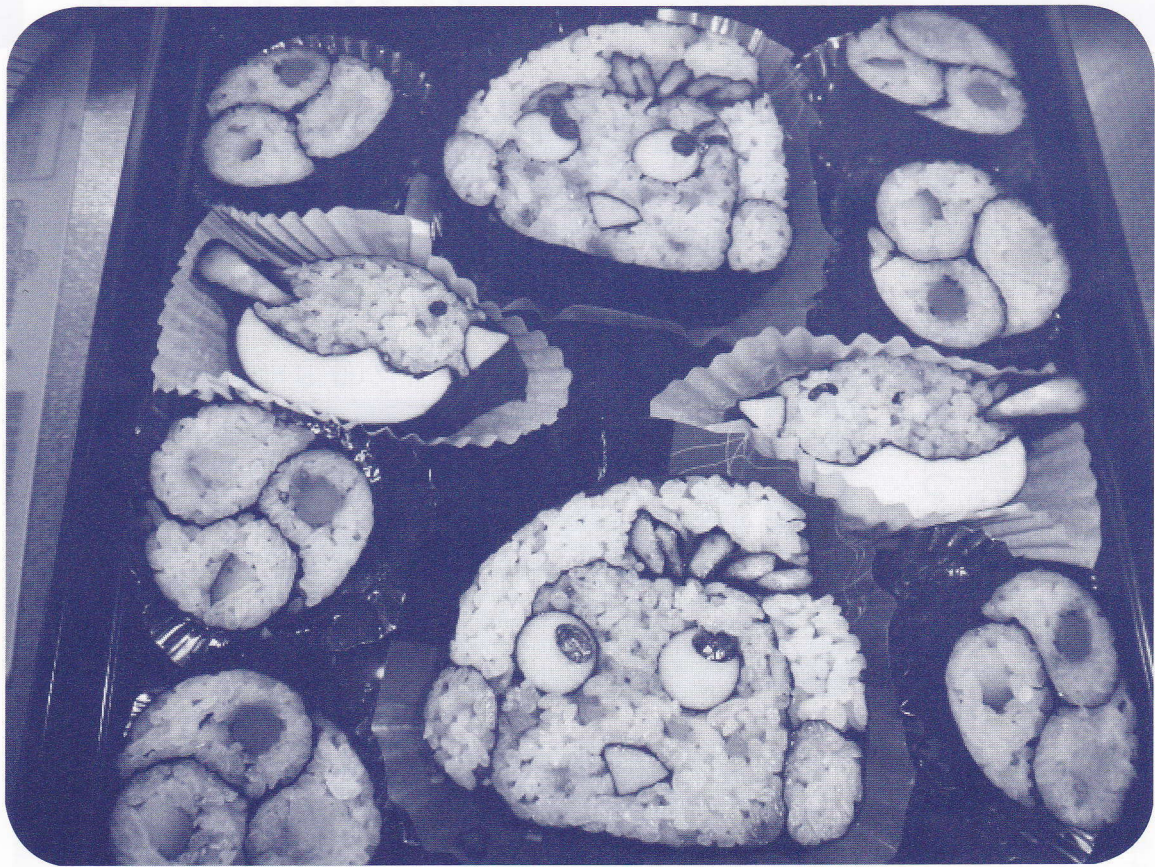


あしたの風

第81号

平成27年9月1日発行
編集発行 秋田市教育委員会
生涯学習室

秋田市の生涯学習



「飾り巻き寿司」

～作る喜び 食べる幸せ～

☆ 河辺地区 ☆

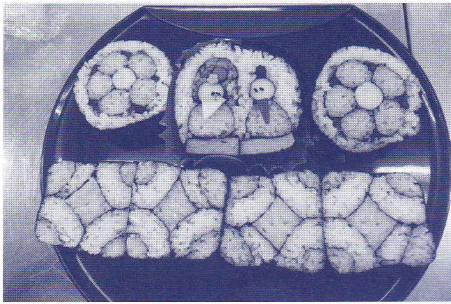
楽しく作って美味しく食べる 飾り巻き寿司

河辺地区生涯学習奨励員

佐藤 敦子

秋田には米を使った郷土料理がたくさんありますが、その中でも巻き寿司は晴れの日のごちそうでした。秋田は巻き寿司の食文化が根付いており、先人の工夫を凝らした独自の模様が多数あります。

私も巻き寿司を習得したいとカルチャー教室に通い、巻き寿司の魅力にどんどん引き込まれていき、遂には飾り巻き寿司1級インストラクターという資格を習得するに至りました。そして、一人で楽しむ趣味であった事を多くの人々と楽しみたいとの思いから「飾り巻き寿司 る・ぶる」として活動を始めて三年になります。各団体などから依頼を受け、地域の公民館などで講習をさせていただきます。参加者も増えています。参加者の中には「子どもが小さい頃は運動会に必ず巻いた」とおっしゃる方が多く、今度は孫に食べさせたいなど、とても喜んでいただいております。平面の絵を立体的のパーツにし、それを組み立てていくので、工作のようでどうなるのかなと戸惑いながらの工程

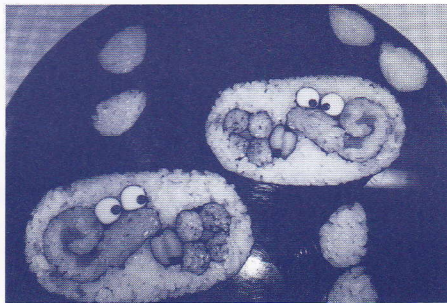


(おひなさま)

ですが、巻いたお寿司を切った時皆様からワーッと声が上がりと、とても喜ばれます。それは私にとっても大変嬉しい瞬間であり活動を続ける原動力にもなっております。更に、作った飾り巻き寿司を食べた時に「甘みが少なく食べやすくおいしい」「かわいくて食べるのもつたない」等、大変うれしい感想をいただきます。若い方達はキャラ弁などを作る機会も多く、日々新しい物やオリジナルの開発に研鑽しております。

今後は地域で定期的に活動できるグループを構成し、飾り巻き寿司を通じて、皆様に「作る喜び食べる幸せ」を実感していただけるような地域活動に、繋げられたらと思っております。

(かたつむり)



☆ 北部地区 ☆

町内に鎮座する三つの社

飯島穀丁前町内会長

船木 暁

穀丁町内は現在世帯数四百五十戸ですが、終戦直後は約五十世帯の小さな集落でした。しかし歴史的には古く、鎌倉時代には穀丁港として穀物の集散地として繁栄し、安東氏時代には最盛期であつ

たと云われています。町内中心道路は旧羽州街道です。この小さな町内に、昔から三つの社(神明社、唐松神社、阿弥陀堂)があり大変珍しいと云われています。

神明社は天明三年(二百三十二年前)の建立となっております。焼失などにより何度も建て替えられ、現在の建物は十五年前町内の皆さんのご厚意により再建されています。毎年六月二十日宵宮行事、二十一日には例大祭を盛大に実施しています。唐松神社は安産の神様として祀られています。大仙市協和境の唐松神社の分社として江戸後期の建立と云われています。阿弥陀堂は江戸後期(文化の頃)赤田の大仏で有名な長谷寺の是山和尚(閑居様)が旅の途中で世話になった豪農船木久右衛門氏へお礼に彫刻した阿弥陀如来像を祀っています。毎年旧暦の三月十五日に祭典を行っています。

三つの社には別当と云う制度があります。町内の皆さんが元旦の初詣をこの三つの社にお参りします。その時の世話役が別当と云う役で数え年の十二歳から十四歳(小学五年から中学一年)の男子が努めます。昔は別当になることは一人前として認められ、本人にとつては大変名誉なことでした。

皆さん穀丁町内に来る機会がありましたら、三つの社に手を合わせてみてはいかがでしょうか。

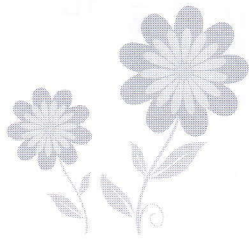


奥に座っている子が「別当」です。

阿弥陀堂祭典



神明社例大祭「湯立て神事」



☆☆雄和地区☆☆

森に遊び・森に学ぶ
ガイドを目指して

雄和ガイドボランティアの会
会長 工藤 正

人口減少が合併前から進んでいた旧雄和町は、交流人口の増加を模索していた。雄和を訪れる人々に雄和の文化、観光、歴史、自然などを紹介する、架け橋となる案内人の養成講座が、町公民館主催で行われ、秋田市・河辺町と合併する一ヶ月前の平成十六年十二月に「雄和ガイドボランティアの会」として発足した。雄和地域に賦存する観光になり得る資源のなかでも、郷土の誇りである石井露月の資料展示館・創建最古の新波神社・雄和のシンボル高尾山・戊辰戦争の史跡・規模と内容が国内最大級のダリア園などへ、旧市内の地区公民館はじめ、案内人関係団体の来訪者は増加した。

私ごとですが、県認定の森の案内人と自然観察指導員の三股で企画した「高尾山のカタクリ観察会」「自然や歴史・伝説を探索する会」の参加者は、合併効果と言って良いほどの多人数で、案内人・指導員の確保に苦慮したときもあった。

高尾山のブナ林が醸す湧水が麓に「石巻の清水」としてあり、通年にわたり愛飲されている。

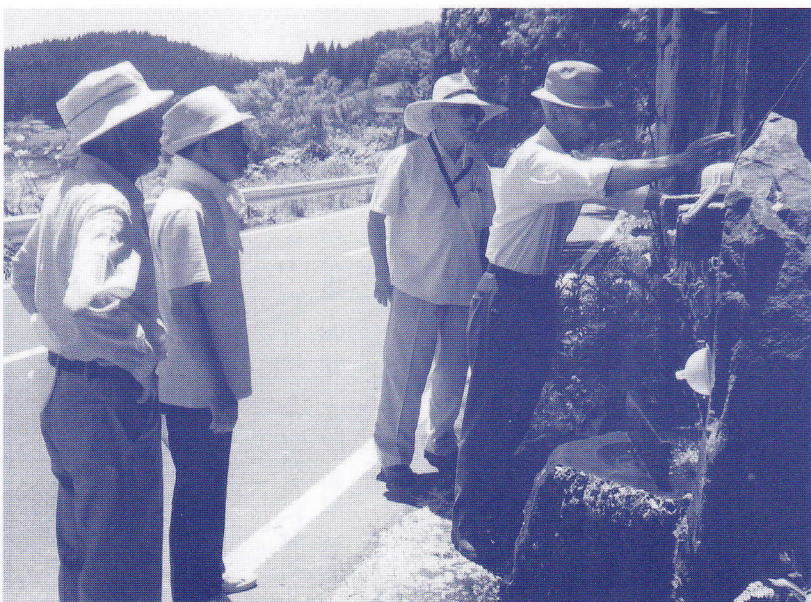
山に行くときはペットボトルに汲んで行くが、飲用以外にも使用している。

【活用の一例】小学生を森に誘った時、山々川々海のつながりについて話をする。落ち葉の堆積した上に水を濯ぐと浸み込んですぐ消えるが、踏み

固められた道では浸み込まずに流下する。「森は緑のダム」の役目と伝え、高尾山の眼下を流れる雄物川の歴史に触れてのガイドもある。標高の低い「高尾山の森」は遊びの場であると同時に、学びの場にもなり得る。森に触れ、森に親しみ、森を愛して守る人の増えることを期待しながら、お山のガイド大将を自負している。

石巻の清水

(雄和女米木地区)



☆☆ 西部地区 ☆☆☆

動物園という文化

大森山動物園

園長 小松

守



(まんまタイム)

博物館や美術館等が資料の収集と展示、また保存管理と研究を教育的に行っているように、動物園も同じように動物を集め展示を行い、飼育の技術研鑽や様々な研究も行っています。ただ、大きく異なることは展示する物には命があるから、世話が必要だし、病気やけがが、そして死も伴います。一方、子が生まれ増えることもあります。動物園を「いのちの博物館」と表現することがあります。特に希少動物の場合、国内、国外の動物園との協力関係で計画的な種(しゅ)保存を進めるなど、動物園はユニークな博物館であり文化資本とも言えます。

秋田の大森山動物園では「動物と語らう森」というテーマを掲げています。博物的展示の枠を超

(親子で楽しむ)



え、単にご覧いただくだけでなく、動物と来園者と共に命あるもの同士、どこかでつながって欲しいという思いから出たものです。それは西洋流の動物を物(コレクション)としてみる意識とはやや異なり、日本人の動物観、自然観をベースにしています。だからと言って動物の柵内に入り込んで、簡単に触れたりしようというものではありません。動物の心をさぐり、来園者が動物に心で話しかけた時、どこか通じ合う一瞬を探ってみては、という思いから出たテーマです。

村上春樹の小説には動物と話す場面がしばしば登場しますが、動物園がどこかファンタスタチック空間な部分があってもいいなと思ったり、親子が、家族がほんわかとした気分のもと、幸せな時間が過ごせる動物園でありたいなと思います。自然科学基調の動物園に人文的な心の世界も入り交じった動物園、そんな文化を動物園で追い求めてみたいものです。

《連載》社会教育活動拠点施設

ほくとライブラリー 明德館について

ほくとライブラリー 明德館

主席主査 (司書)

小室 友嗣

「ほくとライブラリー」とは、この四月に命名された秋田市立図書館五館(明德、土崎、新屋、雄和、河辺)の愛称です。各図書館の入口では、北都銀行のマスコットキャラクター・秋田犬「ほつくん」のイラストが、皆さまを出迎えております。

「ほくとライブラリー」の中心館となるのが、明德館です。秋田市内では県立、土崎、新屋に続く四番目の施設として昭和五十八年、東北地方初となるコンピュータシステムを導入した公共図書館として開館しました。平成二年には全国初となる図書館の外から蔵書の検索・予約ができるシステムを開発し、現在のインターネット検索の先駆けとなりました。

ここ数年は、本市策定の「子ども読書活動推進計画」などに基づき、さまざまな新事業を展開しています。移動図書館「イソップ号」による小規模小学校への巡回、三世代交流を目的にした明德館河辺分館の開館、乳幼児向けサービスに特化し、商業ビルの特性を活かした年中無休の明德館サテライト「フォンテ文庫」の開設、市立全小中学校の図書室へ専任職員を派遣する「図書館サポーター事業」、乳児から本に親しむ「ブックスタート事業」、子どもの成長に応じた本を詰め合わせて貸し出す「かぞくぶつくばっく事業」など、枚挙にいとまが

ないほどです。

建築後三十年が経過し、要所で古さを感じるようになりましたが、建物は全国に数万ある公共建築物の百選に選ばれており、第一回芥川賞作家の郷土文学館「石川達三記念室」も二階にあることから、千秋公園の散策で立寄る観光客も多く見受けられます。

今後も、さまざまな目的で来館される皆さまから必要とされる施設として、誠意努力してまいります。

移動図書館 イソップ号



開館時間

〈平日〉午前9時から午後7時まで

7月の平日のみ、午後8時まで

〈土曜日・日曜日・祝日〉

午前9時から午後5時まで

休館日

毎週月曜日

(ただし祝日・振替休日の場合は開館し、

翌日は休館)

毎月最終日(資料整理日)

(ただし土曜・日曜のときは開館)

年末年始

(本年度は12月28日から1月4日まで)

特別資料整理期間

(本年度は11月16日から30日まで)

石川達三記念室



平成二十七年 度

公民館、市民サービスセンター

まつりのお知らせ

公民館や市民サービスセンターを拠点として学習活動に励んでいる方々の発表の場、そして地域

住民の語らい、親睦を深める場となっています。芸術発表や作品展示、軽食コーナー等が用意されております。ぜひ、会場に行ってみてください。(内容、開催日は、変更になる場合があります。)

○中央公民館

10月2日(金)・3日(土)・4日(日)

○南部公民館

10月2日(金)・3日(土)・4日(日)

○北部公民館

10月16日(金)・17日(土)・18日(日)

○西部市民サービスセンター

10月9日(金)・10日(土)・11日(日)

○北部市民サービスセンター

10月2日(金)・3日(土)・4日(日)

○河辺市民サービスセンター

10月17日(土)・18日(日)

○雄和市民サービスセンター

10月17日(土)・18日(日)

○南部市民サービスセンター

10月24日(土)・25日(日)

○東部市民サービスセンター

10月24日(土)・25日(日)

平成27年度

秋田県生涯学習奨励員協議会

功 労 者 表 彰

平成27年5月14日、秋田県生涯学習センターにおいて、左記の方々が表彰されました。

(五十音順)

- 秋山 勇 吉 奨励員 (東部地区)
- 尾形 悦子 奨励員 (河辺地区)
- 鎌田 重憲 奨励員 (東部地区)
- 佐藤 久治 奨励員 (北部地区)
- 鈴木 捷策 奨励員 (南部地区)
- 船木 ひとみ 奨励員 (土崎地区)

おめでとうございます。
今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。



生涯学習奨励員って・・・

地域における生涯学習を盛んにするためには、住民の身近なところで学習活動を奨励、援助する人が必要です。

生涯学習奨励員は、市町村や各種団体が主催する行事への参加を促したり、楽しい学習事例を紹介したり、自らが公民館や地域への行事に進んで協力する等の役割があります。

「あしたの風」はどのように配布しているの？

「あしたの風」は年2回（9月と2月）各一、一〇〇部発行し、秋田県の社会教育施設（生涯学習センター、図書館など）や秋田市の社会教育施設（公民館、図書館など）、社会教育関係委員（社会教育委員、生涯学習奨励員など）に配布しています。このほかに、市民サービスセンター、地域センター、コミュニティセンターにも配布しています。

ご希望の方は秋田市教育委員会生涯学習室（八六六一二二四五）までご連絡ください。

編集後記

新たな編集委員でなんとか「あしたの風」第81号を発行することができました。二年間という任期ではありませんが、編集委員一同、しみながら一生涯懸命携わって行きたいと思えます。



編集委員 (秋田市生涯学習奨励員)

- 田村 美穂子 (土崎) 富 樫 智恵子 (中央)
- 永井 文代 (東部) 相 原 和子 (西部)
- 乙 供 美 香 (南部) 来 栖 瑞 恵 (北部)
- 石 塚 小 枝 子 (河辺) 大 友 昌 子 (雄和)

『あしたの風』第81号

発行年月日 平成27年9月1日
編集発行 秋田市教育委員会生涯学習室

秋田市山王二丁目1番53号
山王21ビル
電話 〇一八—八六六一二二四五

この広報誌は

単価 一部57円 (消費税抜き)
発行部数 一、一〇〇部
配布方法 無料配布